

ウランバートル市消防局の消防力と火災発生件数

現況の写真

写真 1



写真 1 ウランバートル市全景

手前（南）にトーラ川に沿った自然保護区、左側（西）には発電所、石油基地のある工業地域から右側（東）の市内中心部をはさみ東西に市街地を形成しており、北部および外周部の山腹に向かってゲル地区が広がっている。

写真 2



写真 2 ウランバートル市中心部

市内中心部は、かつて政府関係建築物を中心に繁栄してきたが、近代的なビルも立ち並び、人口の集中と相まって都市構造が変化しつつある。

写真 3



写真 3 ゲル密集地区

ウランバートル市への人口集中のため、火災に対して無防備なゲルが密集している。

写真 4



写真 4 ゲル地区で発生した火災の現場

未明に発生した火災は、ゲル 1 棟を全焼した。この火災により死者が 3 名発生した。

写真 5



写真 5 UBFS 現有消防車

旧ソビエト製 ZIL 130 型
2.1 t 水槽付ポンプ車。
UBFS の主力消防力を形成
しているが、老朽化が著し
く、稼働できる車両が年々減
少している。

写真 6



写真 6 現有ポンプ車の資機材積載状況

車両の側部に収納ボックスがあるが、放水器具とわずかな破壊器具のみであった。

写真 7



写真 7 現有ポンプ車ポンプ室

車両後部にポンプがぎ装されており、排気熱を利用した寒冷地仕様となっている。

写真 8



写真 9 車庫内暖房

地域温水暖房が普及しており、厳冬期においても、消防署の車庫内は +3 から +10 に保たれている。

写真 9



写真 9 日本製消防車

UBFS 現有の日本製消防車をゲル地区の悪路における走行実験の様子。泥濘地及び勾配も走破した。

写真 10



写真 10 UBFS 通信指令室

通信指令卓は、旧東ドイツ製で、有線 3 回線のほか、HF 無線機 (写真 11) (使用不能)、VHF 無線機 (写真 12) が設置してある。

写真 11



写真 12



写真 13



写真 13 ポンプ車のコックピット

旧東ドイツ製の無線機を積載しているが、故障のため通信不能である。

写真 14

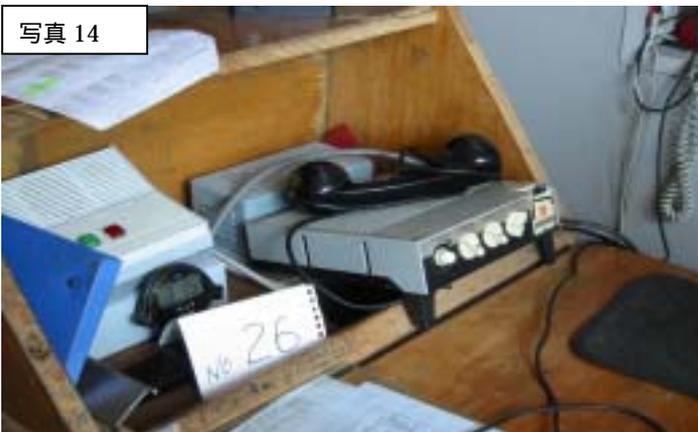


写真 14 署隊無線機

同じく旧東ドイツ製の無線機を使用しているが、周波数ズレ等をおこしており、安定した通信ができない。

写真 15



写真 15 現有防火衣の状況

ヘルメットは FRP 製でしころ、プラスチックフード付であるが、変色している。

衣は綿(キャンバス生地)の単層ハーフコートタイプで、耐火性能がなく、生地 of 磨耗、劣化が著しい。

写真 16



写真 16 消防車の修繕状況

耐用年数を大幅に超えたロシア製のポンプ車を修繕している。整備機材の不足とパーツの供給が途絶えており、故障の都度、部品を加工して対応しているが、修繕不能の車が多くなっている。

写真 17



写真 17 引伸機(白黒写真用)

旧型の引伸機で、焦点機能が損傷しており、鮮明な写真が作成できない。

写真 18



写真 18 簡易火災調査器具類

器具類が少なく、正確な調査の実施に支障をきたしている。